

「武道学研究」原稿作成要項（旧）

「武道学研究」原稿作成要項（新）

日本武道学会編集委員会

旧	新
<p>1. 原稿の作成 原稿は原則としてMicrosoft Wordで作成し、A4判縦置き横書き、全角40字40行（英文綴りおよび数値は半角）で、上下左右に3cmの余白をとり、フォントの大きさは10.5ポイントにしてください。</p> <p>2. 原稿の順序 原稿は表紙、英文抄録（和訳文）、本文、謝辞（必要な場合）、著者貢献、注記（必要な場合）、文献リスト、図・表・写真等の順に作成してください。</p> <p>3. 表紙 表紙には、以下の項目を記入してください。</p> <p>(1) 投稿区分 総説、原著論文、研究資料、実践研究、事例報告、その他（書評、評論、解説、内外の研究動向、関連学会だより、分科会報告、海外レポートなど）の区分を記入してください。</p> <p>(2) 題名 題名は、研究の内容を明確に表現するものとし、副題をつける場合には、コロン（:）で続けてください。</p> <p>(3) 著者名・所属機関名 著者名および所属機関名は、姓・名を記した後に、所属機関名を（ ）内に記してください。共同研究の場合は、筆頭著者・共同著者の順に、全員の姓名（所属機関名）を記してください。</p> <p>(4) 筆頭著者の所属機関所在地等 筆頭著者の所属機関所在地について、郵便番号、所在地（番地まで）、E-mailアドレスの順に記してください。</p> <p>(5) キーワード キーワードは、論文の内容や特色を的確に示すもので、3つ以上5つま</p>	<p>1. 原稿の作成 原稿は原則としてMicrosoft Wordで作成し、A4判縦置き横書き、全角40字40行（英文綴りおよび数値は半角）で、上下左右に3cmの余白をとり、フォントの大きさは10.5ポイントにしてください。</p> <p>2. 原稿の順序 原稿は表紙、英文抄録（和訳文）、本文、謝辞（必要な場合）、著者貢献、注記（必要な場合）、文献リスト、図・表・写真等の順に作成してください。</p> <p>3. 表紙 表紙には、以下の項目を記入してください。</p> <p>(1) 投稿区分 総説、原著論文、研究資料、実践研究、事例報告、その他（書評、評論、解説、内外の研究動向、関連学会だより、分科会報告、海外レポートなど）の区分を記入してください。</p> <p>(2) 題名 題名は、研究の内容を明確に表現するものとし、副題をつける場合には、コロン（:）で続けてください。</p> <p>(3) 著者名・所属機関名 著者名および所属機関名は、姓・名を記した後に、所属機関名を（ ）内に記してください。共同研究の場合は、筆頭著者・共同著者の順に、全員の姓名（所属機関名）を記してください。</p> <p>(4) 筆頭著者の所属機関所在地等 筆頭著者の所属機関所在地について、郵便番号、所在地（番地まで）、E-mailアドレスの順に記してください。</p> <p>(5) キーワード キーワードは、論文の内容や特色を的確に示すもので、3つ以上5つま</p>

で、和文と英文で記してください。

#### 4. 英文抄録

総説、原著論文には、必ず英文抄録を付してください。また、その和訳文も必ず添付してください。なお、研究資料、実践研究、事例報告については、英文抄録の添付を任意としますが、英文タイトル、著者名、所属機関名は英文で明記してください。英文抄録は下記の順序および要領で作成してください。

##### (1) 英文タイトル

英文タイトルの最初の単語は、品詞の種類にかかわらず第1文字を大文字にしてください。その他は、固有名詞など、特に必要な場合以外はすべて小文字とします。

例：A historical study on

##### (2) 著者名、所属機関名

著者名は名・姓の順とし、名はキャップ・アンド・ロー、姓は大文字で書いてください。所属機関名は、（ ）内に正式英語名称をキャップ・アンド・ローで記してください。共同研究の場合は、筆頭著者・共同著者の順に、全員の名・姓（所属機関名）を記してください。

例：Akira ITO

##### (3) 要旨

400語以内で書いてください。

#### 5. 本文の形式

##### (1) 本文の構成と見出しタイトルのつけ方

本文は、原則として章・節・項・目などから構成し、それぞれのタイトルは、

I ..... 1. .... (1) .....

1) ..... ① ..... a. ....

の順序で標記してください。

##### (2) 頁

本文1頁目を1頁として、用紙下部中央に通し頁をつけてください。

で、和文と英文で記してください。

#### 4. 英文抄録

総説、原著論文には、必ず英文抄録を付してください。また、その和訳文も必ず添付してください。なお、研究資料、実践研究、事例報告については、英文抄録の添付を任意としますが、英文タイトル、著者名、所属機関名は英文で明記してください。英文抄録は下記の順序および要領で作成してください。

##### (1) 英文タイトル

英文タイトルの最初の単語は、品詞の種類にかかわらず第1文字を大文字にしてください。その他は、固有名詞など、特に必要な場合以外はすべて小文字とします。

〔例〕 A historical study on

##### (2) 著者名、所属機関名

著者名は名・姓の順とし、名はキャップ・アンド・ロー、姓は大文字で書いてください。所属機関名は、（ ）内に正式英語名称をキャップ・アンド・ローで記してください。共同研究の場合は、筆頭著者・共同著者の順に、全員の名・姓（所属機関名）を記してください。

〔例〕 Akira ITO

##### (3) 要旨

400語以内で書いてください。

#### 5. 本文の形式

##### (1) 本文の構成と見出しタイトルのつけ方

本文は、原則として章・節・項・目などから構成し、それぞれのタイトルは、

I ..... 1. .... (1) .....

1) ..... ① ..... a. ....

の順序で標記してください。

##### (2) 頁

本文1頁目を1頁として、用紙下部中央に通し頁をつけてください。

例：— 1 —

また、本文の左側に行番号（ページごとに振り直し）を付加してください。

(3) 数字

数字は、原則としてアラビア数字を用いてください。

(4) 計量単位

計量単位は、原則として国際単位系（SI単位系）を用いてください。

(5) 元号・尺貫法

1) 元号

文中に元号を用いる場合、必要に応じて西暦年を付記してください。

例：明治10年（1877）

2) 尺貫法

文中に尺貫法を用いる場合、必要に応じてメートル法を付記してください。

例：8尺（約2.4m）

(6) 略語

論文中において高い頻度で使用される用語に対して、著者がその略語を用いる場合は、初出時に略さずに記し（以下「○○○」と略す）と添え書きをしてから、以後その略語を用いてください。

〔例〕— 1 —

また、本文の左側に行番号（ページごとに振り直し）を付加してください。

(3) 数字

数字は、原則としてアラビア数字を用いてください。

(4) 計量単位

計量単位は、原則として国際単位系（SI単位系）を用いてください。

(5) 元号・尺貫法

1) 元号

文中に元号を用いる場合、必要に応じて西暦年を付記してください。

〔例〕明治10年（1877）

2) 尺貫法

文中に尺貫法を用いる場合、必要に応じてメートル法を付記してください。

〔例〕8尺（約2.4m）

(6) 略語

論文中において高い頻度で使用される用語に対して、著者がその略語を用いる場合は、初出時に略さずに記し（以下「○○○」と略す）と添え書きをしてから、以後その略語を用いてください。

(7) 引用

本文中で引用した文献は、すべて文献リストに掲載してください。本文中の文献は原則として、著者名と発行年で記述してください（著者名・発行年方式）。ただし、本文中の引用順に連番を付して記述し、文献リストに連番順に掲載することもできます（引用順方式）。

〔例〕著者名・発行年方式

- ①著者が1名の場合：「嘉納（1889, 1890, 1893）による複数の記述では…」，「…（Austin, 2009）と示唆されており…」
- ②著者が2名の場合：「…との見解が多い（工藤・水谷，2019；角田・酒井，2017）」，「Nagamine and Suzuki（1964）の先行研究によると…」
- ③著者が3名以上の場合：「篠原ほか（2016）によれば…」，「…（Morris et al., 2009）と報告されているが…」

### (7) 注記

注は、本文または図・表・写真等で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみ用い、その数は最小限にとどめてください。注をつける場合は、本文の該当箇所に<sup>注1)</sup>、<sup>注2)</sup>のように通し番号をつけ、文献リストの直前に一括して番号順に記載してください。注記の見出し語は「注」とします。

### 6. 図・表・写真等

図・表・写真等は、投稿規程 I—5(3)(4)(5)を参考にして作成してください。

### 7. 謝辞

投稿原稿の作成に一定の貢献をしたが、著者資格の基準を満たしていない者に対して、必要に応じて謝意を示してください。

### 8. 著者資格

投稿原稿におけるすべての著者の貢献(役割)を正確に明示してください。その際、著者のイニシャルを使って以下の例に倣って記載してください。

[例]

著者KO、著者FUと著者YMは、研究デザインとプロトコルを概念化し、著者KKはデータ収集と論旨の組み立てを担当した。著者SDはデータ分析とその解釈を担当した。草稿は著者TYが担当した。すべての著者は、原稿を批判的にレビューし、修正し、投稿を承認した。

### 9. 文献リストの形式

④同一著者の同一年に発行された複数の論文の場合：「原田(2011a, 2011b, 2011c)の一連の研究では…」, 「Nogueira et al., (2015a, 2015b)の仮説では…」

[例] 引用順方式

①文献が1つの場合：「…とされている<sup>1)</sup>」

②文献が複数の場合：「…と報告されている<sup>2,3)</sup>」, 「…と示唆されている<sup>4,5,6-8,9,10-3)</sup>」

### (8) 注記

注は、本文または図・表・写真等で説明するのが適切ではなく、**補足的に説明することが必要なときに用い、本文の該当箇所に<sup>注1)</sup>、<sup>注2)</sup>のように通し番号をつけ、**文献リストの直前に一括して番号順に記載してください。注記の見出し語は「注」とします。

### 6. 図・表・写真等

図・表・写真等は、投稿規程 I—5(3)(4)(5)を参考にして作成してください。

### 7. 謝辞

投稿原稿の作成に一定の貢献をしたが、著者資格の基準を満たしていない者に対して、必要に応じて謝意を示してください。

### 8. 著者資格

投稿原稿におけるすべての著者の貢献(役割)を正確に明示してください。その際、著者のイニシャルを使って以下の例に倣って記載してください。

[例]

著者KO、著者FUと著者YMは、研究デザインとプロトコルを概念化し、著者KKはデータ収集と論旨の組み立てを担当した。著者SDはデータ分析とその解釈を担当した。草稿は著者TYが担当した。すべての著者は、原稿を批判的にレビューし、修正し、投稿を承認した。

### 9. 文献リストの形式

文献リストの見出し語は「文献」とし、原則として本文の後に筆頭著者名のアルファベット順に一括し、片カッコつきの番号を付してください。また、本文の該当箇所にも、その片カッコつきの番号を付してください。人文・社会科学系の論文については、本文の該当箇所に出現順に片カッコつきの番号を付し、本文の後に番号順に記載することもできます。なお、文献リストは原則として以下の形式で記してください。

(1) 雑誌（定期刊行物）

著者名：題名，雑誌名，巻号：頁-頁，発行（西暦）年。

(2) 単行本等

著者名：書名（版数），発行所，発行地：頁-頁，発行（西暦）年。

(3) WEBサイト等

著者名：WEBページの題名，発行（西暦）年，参照URL，（参照日）。共著の場合，和文では中黒（・），英文では（and）で続けます。ただし，英文で3名以上の場合にはコンマ（，）でつなぎ，最後の著者の前だけに（and）を入れてください。単行本等で編集・監修書の場合にはその旨を明示し，引用箇所が特定できない場合は頁を省略してください。単行本等の一部を引用する場合は，論文や章等の題名の後に，編集・監修書の情報を示してください。英文で編集者等が1名の場合は（Ed.），複数の場合は（Eds.）としてください。WEBサイト（ホームページ）やWEBサイトに掲載されているPDFファイルなどを参考文献とする場合，参照時のURLと日付を記録し，内容の保存を行ってください。

その他の詳細は以下の例に倣ってください。

[例]

- 1) 和田崇：剣道用具の生産・流通システムの変化と材料産地の対応，*武道学研究*，50 (3)：135-147，2018。
- 2) 山本浩二・島本好平・永木耕介：柔道授業の初習段階における学習順序の違いが生徒の学習成果に及ぼす影響，*武道学研究*，50 (3)：149-158，2018。
- 3) Vanltallie TB, Yang MU, Heymsfield SB, Funk RC and Boileau RA:

文献リストの見出し語は「文献」とし、原則として本文の後に一括して記載してください。著者名・発行年方式の場合には、筆頭著者名のアルファベット順に一括し、片カッコつきの番号を付して記載してください。また、本文の該当箇所にも、その片カッコつきの番号を付してください。引用順方式の場合には、本文中の連番順に記載してください。なお、文献リストは原則として以下の形式で記してください。

~~人文・社会科学系の論文については、本文の該当箇所に引用出現順に片カッコつきの番号連番を付し、本文の後に番号順に記載することもできます。~~

(1) 雑誌（定期刊行物）

著者名：題名，雑誌名，巻号：頁-頁，発行（西暦）年。

(2) 単行本等

著者名：書名（版数），発行所，発行地：頁-頁，発行（西暦）年。

(3) WEBサイト等

著者名：WEBページの題名，発行（西暦）年，参照URL，（参照日）。共著の場合，和文では中黒（・），英文では（and）で続けます。ただし，英文で3名以上の場合にはコンマ（，）でつなぎ，最後の著者の前だけに（and）を入れてください。単行本等で編集・監修書の場合にはその旨を明示し，引用箇所が特定できない場合は頁を省略してください。単行本等の一部を引用する場合は，論文や章等の題名の後に，編集・監修書の情報を示してください。英文で編集者等が1名の場合は（Ed.），複数の場合は（Eds.）としてください。WEBサイト（ホームページ）やWEBサイトに掲載されているPDFファイルなどを参考文献とする場合，参照時のURLと日付を記録し，内容の保存を行ってください。

その他の詳細は以下の例に倣ってください。

[例] 著者名・発行年方式

- Eric H and Terence R (Eds.) : translated by Maekawa K and Kajiwara K, *The invention of tradition* (8th ed), Kinokuniyashoten, Tokyo: 1992.
- 猪飼道夫編：身体運動の生理，杏林書院，東京：329-337，1979。
- 公益財団法人講道館：嘉納治五郎師範の教え，2018年，  
<http://kodokanjudoinstitut.org/doctrine/>，（参照日2018年6月27日）。
- Landers DM and Boutcher SH: *Arousal-performance relationships*. In:

Height-normalized indices of the body's fat-free mass and fat mass: potentially useful indicators of nutritional status, Am J Clin Nutr, 52 (6): 953-959, 1990.

- 4) 高石昌弘・樋口満・小島武次：からだの発達-身体発達学へのアプローチ-（改訂版），大修館書店，東京：263-267，2006.
- 5) 猪飼道夫編：身体運動の生理，杏林書院，東京：329-337，1979.
- 6) Powers SK and Howley ET (Eds.): Exercise physiology (8th ed), McGraw-hill, New York: 2012.
- 7) 竹田隆行：スポーツ用品産業，原田宗彦編，スポーツ産業論（第5版），杏林書院，東京：19-29，2011.
- 8) Landers DM and Boutcher SH: Arousal-performance relationships. In: Williams JM (Ed.), Applied sport psychology: personal growth to peak performance (6th ed), Mayfield, California: 197-218, 1998.
- 9) レイティ・ヘイガーマン：野中香方子訳，脳を鍛えるには運動しかない！，NHK出版，東京：2009. <Ratey JJ and Hagerman E: Spark, Little, Brown and Company, New York>
- 10) Eric H and Terence R (Eds.): translated by Maekawa K and Kajiwara K, The invention of tradition (8th ed), Kinokuniyashoten, Tokyo: 1992.
- 11) 公益財団法人講道館：嘉納治五郎師範の教え，2018年，<http://kodokanjudo.institute.org/doctrine/>，（参照日2018年6月27日）。

#### 10. 英文原稿

英文原稿の作成要項は，和文と同じです。総説，原著論文には800字以内の和文抄録（題名・著者名・所属機関名・和文要旨）を必ず添付してください。

この原稿作成要項は，平成21年4月1日から適用します。

平成26年7月19日，改定

2018年9月5日，改定

2021年9月12日，改定

Williams JM (Ed.), Applied sport psychology: personal growth to peak performance (6th ed), Mayfield, California: 197-218, 1998.

Powers SK and Howley ET (Eds.): Exercise physiology (8th ed), McGraw-hill, New York: 2012.

レイティ・ヘイガーマン：野中香方子訳，脳を鍛えるには運動しかない！，NHK出版，東京：2009. <Ratey JJ and Hagerman E: Spark, Little, Brown and Company, New York>

高石昌弘・樋口満・小島武次：からだの発達-身体発達学へのアプローチ-（改訂版），大修館書店，東京：263-267，2006.

Van'tallie TB, Yang MU, Heymsfield SB, Funk RC and Boileau RA:

Height-normalized indices of the body's fat-free mass and fat mass: potentially useful indicators of nutritional status, Am J Clin Nutr, 52 (6): 953-959, 1990.

#### [例] 引用順方式

1. 和田崇：剣道用具の生産・流通システムの変化と材料産地の対応，武道学研究，50 (3)：135-147，2018.
2. 竹田隆行：スポーツ用品産業，原田宗彦編，スポーツ産業論（第5版），杏林書院，東京：19-29，2011.
3. 山本浩二・島本好平・永木耕介：柔道授業の初習段階における学習順序の違いが生徒の学習成果に及ぼす影響，武道学研究，50 (3)：149-158，2018.

#### 10. 英文原稿

英文原稿の作成要項は，和文と同じです。総説，原著論文には800字以内の和文抄録（題名・著者名・所属機関名・和文要旨）を必ず添付してください。

この原稿作成要項は，平成21年4月1日から適用します。

平成26年7月19日，改定

2018年9月5日，改定

2021年9月12日，改定

2021年11月20日，改定

付則 この原稿作成要項の改定は，編集委員会の議を経て行い，理事会に報告する．

付則 この原稿作成要項の改定は，編集委員会の議を経て行い，理事会に報告する．